# 『それから』予告

夏目漱石

色々な意味に於てそれからである。「三四郎」には大学生の事を描(かい)たが、此(この)小説にはそれから先の事を書いたからそれからである。「三四郎」の主人公はあの通り単純であるが、此主人公はそれから後(あと)の男であるから此点に於ても、それからである。此主人公は最後に、妙な運命に陥(おちい)る。それからさき何(ど)うなるかは書いてない。此意味に於ても亦(また)それからである。

底本：「漱石全集　第十六巻」岩波書店
１９９５（平成７）年４月19日発行
初出：「大阪朝日新聞」
１９０９（明治42）年６月20日
　「東京朝日新聞」
１９０９（明治42）年６月21日
※初出時、「大阪朝日新聞」には「小説それから」として、「東京朝日新聞」には「新小説予告」「それから」として発表された。
※底本のテキストは、初出（「東京朝日新聞」）による。
※作品の表題「『それから』予告」は、底本編集部によ

る。
※底本には、初出のルビを「適宜削除した。」旨の記述がある。
入力：砂場清隆
校正：小林繁雄
２００３年３月31日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。